

===== 目次 =====

- P1
今号の TOPICS
「今年の調査で感じたこと。」
- P2
3班 草木染め雑感
2班 「ガンバって」
- P3
1班 大山の紅葉探索へ
4班 「ダブルタイム スリップ」
- P4
「自然と文化科」創成期の思い出
リレー随筆 「ご先祖様」
- P5
1泊研修旅行特集
- P6
俳句サロン
絵手紙コーナー
絵画コーナー
工作同好会
「ウサギ工作の選考会」

=====

◇自然と文化だより

アンケート『自然観察で何に喜びを感じますか？』

- ① 体力の維持
 - ② 同定で名前を言い当てる
 - ③ 小さな自然の営みを観る
 - ④ インタープリターをする
 - ⑤ 不思議な事を探す
 - ⑥ 100年先の森はどうなるか考える
 - ⑦ 景色を楽しむ
- 皆さんはどうですか！

野次馬



今号の TOPICS

「今年の調査で感じたこと」

調査グループ専任幹事 鍵谷 享子

「何のために調査するの？」という声も聞こえて来る中で 一部の人のしか意義がわからないままでは、「やらされている。」というストレスが溜まり楽しくない。同じなら少しでも参加して楽しい調査にならないかという思いで目的を考えることにした。そして 2 つの目的を調査係の中で確認した。それが「箕面の植生を知って、講座生対象の観察会に役立つ資料や、知識を提供できるようにする。」と「自分たちの植物に関する知識の習得をはかる。」であった。それに沿って場所などを決めた。

調査場所として、箕面は まず滝道だろうという事、木本は滝道の全区間、草本・シダは調査範囲を絞り 1 区間 200m を 3 か所と対岸 440m にした。結果として調査をするときも余りせかされることなく、その場で図鑑を広げて、ああでもないこうでもない話し合う光景は何とも和やかで、調査の楽しさを少し味わった気がした。「セイタカアワダチソウかな？でもちょっと違うようだが」と言っていたのが次の季節にはシュウブソウと判明。同じ場所で何度も「ゆっくりと丁寧に」の成果かと思われる。

調査の回数も、夏に草本調査を 1 回増やし、スリーシーズンとした。すると春に花が咲いていたものも、葉を茂らせ、実を付けて枯れるという植物の四季の変化の様子も観察出来た。夏真っ盛りの 7 月 30 日の調査では 熱中症などを心配したが、箕面の山は樹木におおわれていて市中より凌ぎやすく、樹木が温暖化防止に役立つのだと実感した。

知識の習得としては、2 人の先生方によるシダの観察講習会は好評だったが、1 回の参加人数が 30 人を超えると少し観察には無理がある。工夫の余地ありと感じた。しかし今まで見向きもしなかったシダに興味を持てるようになった事。また 班別取り組みでは、各班の発表が大変興味深く、有意義で得られた資料や知識などは、講座生対象の観察会の資料に役立つのではないだろうか と科の皆様の底力に感動すら覚えた。

最後に 調査には、観察の得意な方々や沢山の人の参加が必要で、ああだこうだと話し合う事で調査の楽しさや精度も上がり、私たちの植物の知識の習得に役立つのではないかと思います。



来年の干支うさぎ



ウサギのペンダント

(工作同好会の
作品から)

草木染め雑感

3班 町井 武

先日、天然灰汁醗酵建本藍染の見学と体験に阿波藍の里(徳島県藍住町)へ行った。合わせて各種作品を見せて戴いたが素晴らしい伝統工芸品であった。

既に見学体験され御存知の方も多いと思うが、手作業による草木染色は前準備を含め大変根気のいる作業だと実感した。

原料の蓼藍はタデ科タデ属の一年草で開花前の7月初旬の葉を刈り取り、寝かせて醗酵させた「すくも」(葉)を造り此れを灰汁と混合して染料とする。

蓼藍はインドシナ南部の原産で中国を経由して日本には飛鳥時代に渡来し染色や薬草として使われた。

今回の体験見学から改めて草木染めに興味が湧き幾冊かの書物をひも解いて見ると、あらゆる種類の草木が染色材料として使える事を知った。

初歩的な知識としては、アイ・アカネ・ウコン・キハダ・クちなシ等は染料として昔から使われていたのは認識していた。また、名前にフシ(附子)の付くキブシ、ヤシャブシなどは最近知ったが、コナラ属(カシワ・クヌギ・アラカシ等々)の全ての樹皮が古来から庶民の衣服の色として染色に使われていたと書物にあり大変意外であった。

また一方、媒染剤としては、木灰をアルカリ触媒として一般的に使われると云う程度の知識しかなかったが、或る種の樹木、例えばツバキやハイノキ科の樹木(クロバイ・シロバイ・サワフタギ等)はアルミニウム成分を含有するため効果的な媒染剤となるようだ。昔の人達は色々な事をためし、試行錯誤しながら多くの知識を得て行ったのだろう。

植物観察も昔の人達の知識を参考にしながら色々な角度から観察すれば更に興味深いものとなるだろうと思う。



「ガンバって」

2班 大森 美子

我が家は朝日新聞を購読しているので「天声人語」に良く目を通します。

「みずみずしい肌」の記事が載っていたが、文字通り、水分量の多い肌のこと。弾力の失せるのは水分量が減るからと言う。専門家によれば赤ちゃんの皮膚細胞は8割が「水」だが高齢者の女性だと5割ほどになるそう。

年を重ねる毎に水分量は勿論のこと、脳細胞も年々減少方向に成るといふ。

昨年10月と今年2月に孫を授かったが孫達を見るにつけても、成る程成る程と実感している。

頬摺りをすると何とスベスベと気持ちのいいこと。

「シニア自然大学校」に入ったお陰で小学校に出前授業に出掛けたり、イベントで子供達と接して居るとパワーを貰って帰ってくる。老け込んでなんかいられない。外見はともかく精神面だけでも若々しく有りたい、孫が大きく成るまで元気で居たいと思っている今日この頃。

柴田トヨさん、99才の詩集「くじけないで」が話題になったので早速買い求めた。90才を過ぎてから息子さんに勧められて詩を書くようになったそうで、1作品に1週間以上の成作時間を掛け、何度も書き直して完成するとのこと。

※先生に

私をおばあちゃんと呼ばないで。「今日は何曜日?」「9+9は幾つ?」そんなバカな質問しないで欲しい。

「柴田さん、西条八十の詩は好きですか?」

小泉内閣をどう思いますか?」こんな質問ならうれしいわ。(詩集より)

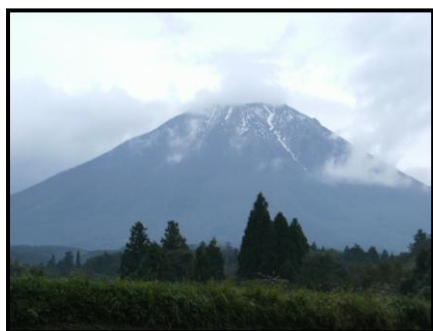
尤もだと思った。我が母は92才になったが子供から見てもガンバッテいるなあ〜と感心している。新聞を読むのを日課にしている世間のことは新聞で情報を得ていて結構詳しい。この母が他人様におばあちゃんと言われるのをとても嫌がる。元気の秘訣なのだろうと勝手に思っています。「人生いつだってこれから。だれにも朝はかならずやってくる」って。一人暮らし20年。私しっかり生きてます。(詩集より)と結んであった。

柴田トヨさんのように私もガンバッテ人生を楽しみたいと思っています。

大山の紅葉探索へ

1班 内田 きみ子

待望の大山の紅葉を見に高等科の同期 8 名で出かけました。10 月 30, 31 日と台風の予報も出ていましたが、当初の計画通り 2 台の車に分乗し、現地で S さんと落ち合い、雨のなか奥大山の森に入りました。僕が同行しないと入れませんと聞いてはいましたが、なるほど、立ち入り禁止と書かれた所には柵があり鍵が掛かっていましたので彼の言葉に納得しました。



この森では 1 番大きいという幹周り 5.7m のミズナラや 5.5m のオニグルミを始めブナやヒノキの下には見渡す限り黄葉したコシアブラを見

ることが出来ました。更に落葉松にはツタウルシが絡みつき、見事な紅葉を見せてくれました。

足下にはショウジョウバカマがロゼット状に葉を広げ、コバノフユイチゴやハクウンボク、とても珍しいというサルメンエビネもありました。

温泉に入り、買い物をして S さんの別荘へ。鍋を囲んで楽しい食事、飲み会となりました。

2 日目も雨が降ってはいましたが通称「健康の森」に入りました。

前日と違い見渡す限りのブナの森でした。しかもここは芦生と違い鹿がいないので下草も沢山、当たり前のことですが本当に自然のままです。オヒョウの木もありました。皆からも芦生よりいいよね、又来たいね～の声が上がり、S さんの名ガイドで大満足の大山でした。



「ダブル タイム スリッ」

4班 安永 邦子

ひょんなことから 15歳の時の作文を眼にした。在校時 生徒数2千人を超すマンモス中学であった。人見知りの私は 過密に怯えて熱気に圧倒されていた。年会報誌 星座のことも 記憶になかった。タッチパネルから ひらりひらりと現れた それは今は跡形も無くなった実家やら 故郷のざわめきまで運んでくれた。その稚拙な一文を！

『ポタリポットンと雨のしずくが樋から落ちている。私は留守番をしています。笹が風にゆれています。生い茂った木々と岩が黒々と化け物の様です。こんな家で留守番は今は嫌です。でも前は好きでした。えっ！なぜって！それはね 人形と金魚と遊ぶの。瓢箪池に入ると 足をチュウと吸いにくるの。じゃぶじゃぶと追いかけるとスーと緩やかなカーブを描いて岩の中へ。ある夏の昼下がり 母は買い物に。4歳の私はいつものように モニカを背負って池へ。でも どっすんと尻餅を。

濡れたモニカを縁側で拭いていると 腕がポロリと。

ぎゃあ おかあちゃん！！

どこをどう歩いたやら。闇の中に点滅する遮断機の灯をぼおっと 見ていました。かくして 私は迷子となりました。 中略

「泣かんでよかあ なんば食べるね？お腹すいたろう」親切なお巡りさんの問いかけに

「 ぜんざいが 食べたか 」 じゃんじゃん。』

今も遮断機のカンカンの響きは脳裏に焼きついてる。保護された大牟田線まで約1キロ。高架になってしまったが 交番まで背負ってくれた方も 有難い。

最後に 今は亡き恩師の言葉

励めよと 吾が足らざるに 望みせし

涙の鞭を許せ いとし子



「自然と文化科」誕生の思い出

「自然と文化科」創成期の思い出

坂本 久夫

時の流れは速く、創設から7年目となる「自然と文化科」は、総員の努力で名実ともにシニア自然大学校で最大、最強の研究科に成長しました。私達(高等科3期)は卒業を前に、卒業後の活動の場となる自前のサークルを立ち上げようと思い立ちました。

有志を中心に奈良公園をフィールドとする「ならなぎ」の設立と、シニア自然大学本部より依頼された地球環境生態系(現「自然学」)講座の設立準備に没頭していました。

ところが卒業真近になって「自然と文化科」から、自然観察会やバスツアーのお誘いがかかり、高等科の先輩達(2期)が高等科卒業生のための研究科、「自然と文化」を既に設立されていることを初めて知りました。設立2年目の「自然と文化科」には、3期からは約半分の15名程度が入り、「自然と文化科」の総員は28名だったと記憶しています。この会はまとまりも良く、活動日を待ちどうしく思いました。当初は組織もまだまだ未熟でしたが、日常の活動を通して日々に進化し、3月末の総会では1年間の活動を全員で総括、侃々諤々の議論をしたことが昨日の出来事のように思い出します。

主たる活動場所も大阪城公園から箕面公園に移したのも2年目からで、箕面公園に何度も足を運び、入念な下見と植生調査を行い、本科講座生を対象に公開観察会をたびたび実施しながら、各自観察リーダーとしての実力を身につけていきました。

また、社会貢献事業にも寄与すべくOG観察会を3年目から受託しました。その他行事もあり、やりくりが多忙を窮めましたが、まとまりも良く、楽しく遊び、夢中に学べたのもこの時期だったと思います。3年目から新入科員が20名を超えるようになり、嬉しい悲鳴をあげながらも大所帯の運営を「どうしようか?」と、この頃から問題意識も持ちはじめました。今後も総員の英知を結集、創意工夫をしてより多くの人々が、より楽しく遊べ、そして学べる「自然と文化科」に進化していくことを願ってやみません。

リレー随筆

ご先祖様

井上 信子

先日沖縄の久米島を旅した。

ここでも本島と同様な立派なお墓が目についた。それもあっちの畑の端、家の傍ら、海辺の道脇などポツンポツンと。しかしお寺らしきものが見当たらない。

土地の人に聞くと「お寺はありません。」思わず(お葬式はどうするのよ)と気になった。

心配いりません。お坊さんがいなくても亡くなった人が出ると、仕事を休んで皆が集まりご先祖様に新しく仲間入りさせてもらえるようお願いし、その時沢山のお土産を持たせて旅立たせたそうです。

先祖を尊ぶのは現在の自分を作ってくれたからと極めて明快な事でした。

その後、「土にかえったかなあという頃に遺体を掘り起こし、骨をきれいに洗いつぼに入れてお墓に納めたのだ。」と。この話を聞いて「ぎょ!」

墓参りもろくにせず、死んだら散骨でいいやあとと思っていた自分は、「いのち」を引き継ぐ事を大事にしている沖縄の人に比べて、恥ずかしくなりました。

怖かったけれどもほのぼのした気持ちにもなれた「骨洗い」も土葬が禁止になり今は火葬になったため無くなったという事でした。

久米島の風景



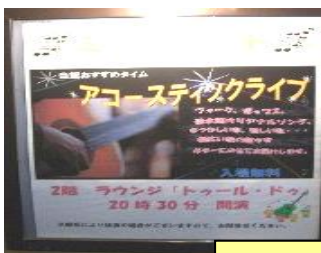
28日: 雨の中出発。旅の道の駅コンゴロ金沢で昼食。石川県林業試験場・樹木公園へ



雨の中樹木観察、晴れていたら、好いのになあー



旅館特製の懐石料理で、楽しい楽しい宴会



29日: 雪の科学館で 雪の結晶作りおよび氷のペンダント作りを体験。このペンダント素敵でしょう!



伝統工芸 ゆのくにの森散策と昼食

熱心に樹木観察



俳句サロン
コーナー

山上 恵子

古き名の我が名呼ばれん曼珠沙華
秋晴れやノートルダムの尖る塔
愛でる菊食べる菊あり龍馬像
菊の香に咽んでゐたる菊人形
長き夜や積み上げ崩す文庫本
神無月むすめ出雲へ旅急ぐ
木の実食べ皆一斉の青い舌

大森 美子

(孫の運動会にて)

体育の日孫だけ見つめる八つの目
運動会今年は2等と得意顔

(秋の研修旅行にて)

氷雨降る水平線は鉛色
寒月やひとり入りたる露天風呂
地藏様も蓑傘着るや冬支度

谷坂 修二

曼珠沙華のたり晴れたる田んぼ道
飛べぬのに鈴虫鳴くや羽のていれ
照り返す青赤黄色もみぢ踏む
石子詰ありたるところ花わらび
吾を抜き落葉の走る下山道

松平 吉生

風琴の音に揺れたるか秋簾
礫山の女顔あぐ秋のころゑ
飛火野に鹿跳ぶ空のひろさかな
蕉翁は近くて遠し蚯蚓鳴く
秋雲を掃きをり風の榛の木は
川波の岩礁越ゆる冬初め
石蓀咲くと甲冑近づき来たるべし

下浦 美代

初もみぢ川底蟹が歩きをり
亡き母が父に逢ふ日の秋桜
吾亦紅父待つもとへ母送る

絵手紙
コーナー



(山下 勝弘)



(中川 恵美)

絵画
コーナー



(ナギ)



(ホトギス)

工作同好会
ウサギ工作の選考会

初めての企画として来年の干支[ウサギ]をテーマに、使う材料、手法、出来栄えは問わないということで募集したところ、19人・30作品が応募された。同好会メンバーの投票により3件の優秀作品(制作者)を選出し、賞金が授与された



最優秀作品



優秀作品



優秀作品

自然と文化だより
皆様のご協力により7号が発行出来ました。
次号をお楽しみに！(宮阪)